

塩野室地区まちづくり懇話会 “しおのむろ茶論”

日 時：平成 30 年 6 月 24 日（日）10 時～

場 所：小林公民館

テーマ：地域のふれあい、みんなが集まれる場所・機会対策

次第：1 開会 地域振興課長

2 挨拶 日光市長 大嶋 一生

3 意見交換

4 その他

5 閉会

《意見交換内容》

参加者 2 私もこういう機会は初めてですので、どういうものを提案したらいいのかよく分からなかったのですが、全国各地色々なところでまちづくりが話題になっております。まちづくりというのは、結局は暮らしづくりだと思います。我々の生活の環境を整えて、幸せな一生を終えることができるような環境を整えるということに、繋がっていくのではないかなと思うわけです。そのためにどうしたらいいのかということなのですが、今、塩野室地区センターでは、サークル活動とか色々な教室など、テーマを掲げて活動しておりますが、こういうものを利用するのが一番手っ取り早いのかなと、それらを通して皆さんがコミュニケーションを図っていくとか、話し合いを盛り上げていければ、だんだんふれあいとかに繋がっていくのではないかなと、そんな感じがしております。各市町村でも健康づくりとか、健康寿命を長くして医療費を削減するというのを、今問題として取り上げてやっているところもありますが、この日光市も公民館を通して少しでもやっていければ、より充実したものになるのではないかと思います。そういうものを通して事業を拡大して行って、今やっている活動というのは、この公民館だけの活動だと思います。参加しているのは、女性がメインではないかと思えます。ここだけではなくて、塩野室地区には各部落に公民館があるわけですから、そちらの方にも市の方の返事をいただいて展開していけば、より多くの方が参加していただけるようなまちというものに繋がっていくのではないかという気がしております。

地域振興部長 今のお話ですと、健康づくりとか健康寿命という部分のお話と、各地区公民館に対する対応ということだと思います。

健康福祉部長 健康づくり、地域づくりということでお話ですが、健康福祉部として取り組んでいることは、全国的に高齢化ということで、日光市は特に人口減少が進んでおり、その中で地域包括ケアシステムということで、医療や介護、健康づくりという部分を単独でやるのではなくて、色々な部分を総合的に提供していきましようということで、考え方が変わってきています。それをやっていく上では、いわゆる公助、公共サービスだけではなくて、公助・共助・自助の、その地域あるいは個々の皆さん方がそれぞれに意識を持って、健康づくりやコミュニケーションを図っていくということが、今後必要になってくると思います。日光市としては、今お話がありましたように健康教室とかを展開しておりますが、それだけですとなかなか多くの方が参加するのは難しいことがございます。その中で塩野室地区の、例えば各地区公民館で色々な事業を展開する、また、もう少し小さい地域の単位で集いの場とかを設けて活動していくということは、我々としても方向性としては

今後のあるべき姿だと思っておりますので、市として色々な面でご支援はしていければと考えております。今やっておりますものと、出前講座や専門職の派遣や、最近増えてきているのが貯筋アップ体操というもので、おもりを付けて簡単な運動をして体力を付けるといったこともやっております、それを指導する職員を派遣したり、そういう取り組みとかをしております。それ以外にも地域の活動の広がりを支援できるような方法はないかということで、今現在検討をはじめているところです。いろいろ聞いてみますと、たしかに女性の方が多く集まりますが、健康づくりで健康マイレージをやっているのですが、男性の参加者が少ないということがありますので、その部分については、地域の中で色々なアイデアをいただきながら、市としても支援を考えていきたいと思えます。あとは、生きがいづくりというのは、生涯学習と重なる部分もございますので、より参加を求める上で、やりがいがあるもの、やりたいものを、どう考えていくかということも今後の重要な課題となると思えます。

地域振興部長 各地区公民館への展開ということで、何かありますか。

教育次長 今、ご紹介いただきました小林公民館では、参加者への希望等を取りながら、毎年メニューを考えて活動させていただいています。各地区公民館で、その事業を展開するところまでは、まだ至っておりません。先ほど説明がありましたように出前講座で、講師とかの派遣というのは行っております。公民館の活動については、地区の体育協会の方などにご協力をいただいておりますので、地域の中の実状を把握しながら活動を進めさせていただければと思えます。

地域振興部長 それでは、今の事業の拡充についてという観点でしたが、そもそも色々なソフト事業の展開に対する参加の促進という観点で、いくつかご意見を事前にいただいているのですが、お手元の資料の4番、8番、12番が、そのような観点のご意見なのかなと思えます。もし、よろしければ4番の方をお願いします。

参加者4 ふれあいづくりということで、今までも新しい事業をつくったり、体育協会でも新しい種目を増やしたり、一生懸命活動をやっているということで企画はしているのですが、見ていると出てくれる方はだいたい一緒に、来ない方はずっと来ないので、その辺で誘い方の問題があるのではないかと。結局呼ばれていないから来ない、きっかけがないというのがあるのではないかと、あと交通の手段や参加の条件等の問題があったりということなので、今まで参加していない人に、どういうアプローチをしていくかというのをもう1回考えて、事業の参加条件とか参加要件を見直していくのは市民サイドでできることで、私たちがやるべきことなのではないかと思う反面、他の行政などでとても参加率が高くて成功している事例があって、検証しているものがあれば教えていただいて、その中でそういうものを生かして、参加を促していくような活動をしていきたいなと思っております。あとは、塩野室地区の体育祭でも、実際は面倒くさいことはあまりしたくないからやめたいという自治会も出てきています。今はなんとかそれを続けていきたい、集まる機会をなくしたくないということでやっているのですが、その辺もあるものですから、意識改革をしていかなければと思えます。私たちができることとしては参加の見直しで、行政サイドにお願いしたいことは、他の成功事例があるのであれば、公民館を通じてご指導いただけたらと思っております。

地域振興部長 まとめさせていただいてから、執行部側からコメントさせていただきます。8 番の方も色々なイベント等について言及されていて、一人でも多くの方に参加いただきたいという視点だと思しますので、ご意見いただければと思います。

参加者 8 参加する方は、自分と同じ性格の方が出てきてくれているのかなと思う一面もあります。今日は用事があるから参加できなかったとか、行きたかったけど行けなかったとか、そういうことも多々ありますが、参加してきれいになったなというのは、そこに参加した方が感じることで、クリーン大作戦をやっていますが、地区によって私たちのところはきれいと言ってくれる方もおりますが、何しろ自動車が通っていますから、この地区の人だけではなくて、他の人が投げ捨てることもありますので、やるときれいになっていいと思います。健康づくりをやるとマイレージがあります。それに参加すると、家族の健康を守っていくため、あと自分の体が健康で長生きできて、病院に入らないですむというのは、やはり大変でも健康づくり大学校を 5 回受けて、自分で学んで家族の健康を守れば元気になれると思います。時間は誰でもとれますが、そこを何とか無理して参加して、いいことを学んで欲しいと思います。マイレージというのは、自分でラジオ体操や歯磨きとか、日光市の健康診断を受けて、ご褒美は微々たるものですが、自分で挑戦できたということでうれしいのです。だから、ぜひ皆さん一声かけていただければと思います。健康診断の結果の時にいただくと思います。参加される方は大学校を受けて、マイレージを挑戦してみてください。よろしくお願いします。

地域振興部長 先ほどの 4 番の方に近い話だと思いますが、やはり 12 番の方も参加促進というスタンスでご意見をいただいているのでお願いします。

参加者 12 今、現在の年寄りの私たちは、好きなゴルフやテニスは集まってできるわけなのです。地域で集まって卓球をやりたいなどの意見はあるのですが、そういう意見をくみ上げる場所が今までなかったのです。どういことをやれば集まってもらえるのか、どういう方法だったら集まってもらえるのかアンケートを取ってもらいたいと思います。それと、この塩野室地区は、交通手段がバスしかないのです。少し奥のほうへ入りますと、歩きか自転車のみです。そういう状況なので、どうしても集まる機会が少なくなってしまいます。できればコミュニティタクシーとか、行政のタクシー、自分たちがタクシー会社を作ってやる。難しい面もあると思いますがボランティアという方法で、人が集まりやすい状況をつくっていく必要があるかと思いますが、その辺についてお聞きかせください。

地域振興部長 同じような参加促進という視点でお話をお願いしたのですが、先ほどのお話で交通に言及されている部分もありましたので、ピンポイントで交通に関してご意見いただいている 6 番の方をお願いします。

参加者 6 主任児童委員をやらせていただいています。主任児童委員の場合、民生委員の方と関わりがありまして、色々な研修に参加させていただいています。色々なサロンの方とお話させていただいています。その際に各地域でどのようにこのサロンが活性化されたかという手段の話を聞かせていただいています。那須あたりのサロンは、最初は少ない人数から、知り合いに声を掛けてそれからどんどん広がって、中心にやっている方は 80 歳代の女性とか、いいお話をいくつも聞いております。その度に、なぜ塩野室は駄目なのかと考えます。先日、民生委員の地区の懇談会がありました。その際、文挾地区で地域が活性化されているイベントがあり、

多くの方が参加しているという話を聞きました。社協の方が自宅を訪問したり、声を掛けて誘ってイベントをされているということです。その中で思うことは、遠方の方などはご自分の車に乗せて来るのですが、何かあった場合に誰が責任を取るのか。自分の車は加入している保険で補えるかもしれませんが、市のイベント等になりますと、市の方でどういうふうに責任を取ってくれるのか、そういうところが問題になるのではないかと思います。何か手段があればなあと考えました。多くの方に集まりを知ってもらうために、地区の同世代の女性陣がお茶会を開いた際に、小林で2回やっている、あったか地域まつりを知らない方がいらっしゃいます。まだ敬老会をやっているのという話も出ました。その度に説明をすると理解をしてくれます。回覧板を回しても全員が目を通していないので、どのように声を掛けたらイベント、行事に参加してもらえるかいつも考えています。その結果が出ないので、自分の中で悪戦苦闘しているところがあります。

地域振興部長 参加促進に向けて何が必要なのか、ニーズを探るとか、ヒアリングをするとか、アンケートを取るとか色々出しましたが、市の担当部署として支援する部分が相当ありますので、個別にやるものなのか、塩野室地区全体で取り組むものか考えていただいた上で、私どものほうも支援していきたいと思います。具体的に他の自治体での成功事例、先進的な取り組みについては、手元に資料はないのですが、先行して研究させていただいて、情報提供や一緒に取り組めるよう考えさせていただければと思います。

健康福祉部長 生活支援体制整備事業について、それぞれの地域でどういう支援があって、どういう活動をしているか、今後どういう支援が必要なのかを検討し、話し合いをしていくことに取り組んでいます。この2年間で、各地域で色々な取り組みがはじまっているところであります。それらの事例等を含めまして、事例紹介が各地域でできるようにということで、色々ところでやっている好事例をまとめたものを、皆さんにお知らせして、こういう取り組みのきっかけ作りになればと考えております。今年度中にまとめて、それぞれの自治会等に提供できればと進めております。市内がベースになっておりますが、それ以外にも他の自治体の取り組みで良い事例があれば掲載したいと思います。自分たちもやってみようとなつなっていくこと、それから、やりたいがどういうふうによればいいかわからない時、ガイドになればと考えております。市の色々な事業で、先ほど健康マイレージの話がありましたが、高齢者の割合が多くて、その中でも女性の割合が多く、男性が取り組む事例が少ないということと、若い方に若い時から健康づくりに取り組んでいただいて、将来介護が必要にならないように健康を維持していきましょうという考えでやっている事業ですが、なかなか若い方の取り組みが少ないということがありまして、どういうふうになれば健康づくりに取り組んでもらえるか、今後考えていきたいと思っています。

市民生活部長 昨年もこの話題が出てお話したのですが、その後、市の計画の作りなおしということもありましてヒアリングを行いました。この地区は、路線バスは走っていますが、不便な面がありますということで、計画の中でも主要路線は確保しつつも、地域内を移動できる手段を探っていきましょうということで、自治会長はじめ下準備は昨年から進めているので、今後もそういった方向で可能性を探っていかなければならないと思っています。助け合いの中での移動というのが、本地域内ではいいと思いますが、補償問題などが出てきますと、クリアしようとするところある程度整った形のものを作らなければいけないということで、昨年と同じ話になってしまいますが、今市の南部地区で、地元で立ち上げてやっているデマンド型の交通があるのですが、これは民間のタクシー事業者の力を借りながら、また、地域もそれなりに負担をしながらやっているものがあ

ります。それができないとなると、制度的には公共交通空白地有償輸送という制度ができて、言葉は悪いのですが白タクの許可をもらって運営する方法があります。この制度が一昨年できましたので、やることはできます。ただ、バス路線やタクシーが運行している地域ではないところという前提があります。そういう方法も無きにしてもあらずかなあとと思います。それには人と経費が絡んできますので、どういう方法が良いのか皆さんで相談して進めていく必要があるのかなと思っております。

副市長 先ほど情報提供の話がありましたが、提供に関しては年度初めに自治会長の集まりの時に、情報を盛り込んだものをお配りしているのですが、各自治会や他の自治体の好事例という話になると、その場で提供できていない状況です。先ほど健康福祉部長からも、福祉の分野からの情報提供も色々な情報が矢継ぎ早にきて整理のしようがないので、その辺は地域振興部の中でもう一回情報を整理して、参考になるものは提供していきたいと思います。それを仮に、好事例を実践に移そうとしたときに、少し資金が足りないとか、もしくは、本来であれば市でできるのではないかというものは、地域まちづくり事業の提案制度の中に盛り込んでいくこともできます。また、自ら自治会が行うまちづくりであれば、それに沿う補助制度もありますし、市民団体が行うものにも補助制度があります。補助率の問題もあるのですが、そういった他のところでやっているものが、自分のところでもフィットするなということであれば、そんな使い方をしていただければと思います。アンケートも組内や自治会の中で、どんなことをやりたいのか聞いてもらうのが一番有効だと思いますので、その辺も合わせてやっていただければと効率がいいと思います。

地域振興部長 次に視点を変えまして、新たな事業であったり、復活であったりという点で、7番のご意見は新しい提案だと思います。11番のご意見は昔のものを復活ということで、7番の方からお願いします。

参加者7 今市地域の轟、倉ヶ崎、小倉町、古山に城跡があります。私が中学生のころは、古山に階段がありまして、うさぎ跳びなどをしました。今そこに行くのには、あぜ道の参道がありますが、他人名義になっているので、それをやるのは難しいかと思えます。小倉山がハイキングコースになっていると思いますが、健康づくりと言えば高齢者もいますし、ハイキングができればと提案しました。宇都宮では旧大晃あたりからこどもの森まで、徳次郎街道を多くの高齢者たちがハイキングするのが見受けられます。小倉山もハイキングできたら、健康面ということでもいいのではないかと思い提案しました。ハイキングコースという例で出しましたが、矢野口の集落にしだれ桜があったり、沓掛の桜の木もあります。古山城跡、小林の瀧尾神社には市指定の大杉があります。ここには氏子たちが作った神社の森公園があり、この辺でひと休みできればと思いました。立派な城跡があるので、看板等を付けていただければいいかなと思提案しました。

地域振興部長 次に既存の事業の復活という提案で、11番の方お願いします。

参加者11 今回のテーマが地域のふれあい、みんなが集まれる場所ということで、みんなが集まれる行事的には、あったか地域づくりと体育祭が大きな行事になります。盆踊りの復活ということで書かせていただきましたが、子供から老若男女が集まれるのが盆踊り、今やっているあったか地域づくりの行事だと思います。行事が少なくなっている時代なので、みんなが集まれる場所が復活できればいいなと思いました。今市地区でみんなが集まれる行事は、どんなものがあるのか、また盆踊りなどをやっているところがあるのかお聞かせくだ

さい。何十年前に盆踊りをやっていたのですが、それもなくなってしまって、みんなが集まれる場所が少なくなったと思い提案しました。

教育次長 教育委員会のほうでハイキングコースを整備している事例はないのですが、文化財という視点では轟、板橋は文化財の史跡として、看板等の設置は可能です。塩野室地区では、沓掛の山桜、小林の瀧尾神社の杉については、すでに説明板とかは設置させていただいています。矢野口のエドヒガンはまだ設置していません。コースとなると、全体を見ていかななくてはならないので、教育委員会だけでできるかどうか分かりません。今のところ検討はしていないのですが、こういう提案をしていただいたことは、心にはとめておきたいと思います。文化財という視点では、文化財であれば看板は設置できますので、周遊コースの一部ということなんかは可能だと思います。

地域振興部長 盆踊りについて、今市地区では盆踊りというより夏祭りの復活に市からの助成を使ってハード面、ソフト面に活用して復活しているところが何ヶ所かあると思います。地域の賑わいの創出や復活の観点で、小さい自治会単位でやるのか、ある程度まとまってやるのかで優先順位や内容を、色々な場で話を出していただいて、まとめてもらえれば市でも使えるような支援制度があるので、一緒に検討させていただければと思います。

参加者 10 人が集まれる場所はどこがあるのか集落の人に聞いたところ、30年前頃に市の園場整備に伴って、農村公園を市のほうで設置してもらいました。休みの日は、集落の子どもたちの遊び場所で、砂遊びや鉄棒、ブランコで遊んでいるのが結構見られます。現在は若者が戻ってきてくれて、小中学校へ通う子が15名います。子供たちが公園で親と一緒に遊んでいる光景が見られるのでいいことなのですが、困っていることは32年ほど経っているので、ベンチや鉄棒、ブランコの老朽化がはげしいので、危険ではないかと思っています。集落の予算が厳しいのがありまして、何とかしたいと思い提案させていただきました。市にお願いしたいのは、施設の管理は集落のボランティアでできるのですが、老朽化したベンチなどは、できれば安全面を考えて改良していきたいので、市の支援があればありがたいので、よろしくお願いします。

産業環境部長 農村公園ということで、農林課が所管する施設なので農林課の職員と現場を見てきました。今現在利用しているということなので、今後の利用方法をどのように考えているのか、自治会でどういう整備を考えているのか、その辺につきまして自治会と担当課で協議をして、修理の仕方などどんなやり方がいいのか、研究・調査をさせていただきながら、支援できるものについては支援をしたいと考えております。後ほど担当課と調整させていただきたいと思います。

地域振興部長 塩野室地区で行政に対してハード面、ソフト面を含めてやってもらいたいことについては、地域まちづくり事業提案制度というのがあるので、塩野室地区でまとめて何か大きなものを優先的にやるのか、それぞれの箇所の困りごとや優先順位の高いものについて、ハード面、ソフト面で提案していただければ、市でお手伝いをするということが制度として可能なものがありますので、その辺も含めて相談いただければと思います。

参加者 15 塩野室地区でも以前は青年団という若い人たちの団体がありましたが、今現在はそういうものはなくなり、今日、子供は消防団のほうで広報活動に行っていますが、これは男性だけの集まりで、男女とも集まる機会やそういう活動がありません。次の世代が生まれてこない限りは、この企画を色々な方がやって仮にできたとしても、継続ということは困難だと思います。どうか日光市、塩野室地区で若い方が活発に動いて、次の世代が生まれてきてくれるような仕組みをつくっていただきたいと思います。船村徹記念館みたいなものとは言いませんから、日光市でも若い方が集まって参加できるようなものを、また、色々な方がそこで楽しめるようなもの、それによって色々な外国の方にも来ていただいて、どんどん人口が増えるような仕組みにしたいかないと、活性化にはならないと思います。そのところを日光市にお願いしたいと思います。

市長 去年生まれた赤ちゃんが400人ほど聞いております。450人についていません。8年ほど前は600人ほどだったと思います。どんどん少なくなってきた、少し暗い話ですが、3年くらい前に人口減少問題が爆発的に大騒ぎになってきたのは、地方自治体が潰れるという本が出版されたという経緯があります。

要はこの地区に18歳から35、36歳までの女性の方が何人いるかということで、将来の人口を考えるということです。日光市全体で、その世代の女性が何人住んでいらっしゃるか、そのことによって結婚する確率と、子供が生まれる確率とで、どんどん人口が減ってくるという話だったと思います。現在の出生率1.4が2.0にすぐ回復しても、人口が戻るまでに50年以上かかりますという話なのです。

ですから、どこの自治体も、この人口減少というのを食い止める、食い止めると言っていますが、大都市の東京とか埼玉から来てもらうのが一番いいのだけれども、地方自治体や栃木県の中で人を取り合いしても、結果的にはどこかが増えて、どこかが減ることになりますから、人口は減るかもしれないが、それでも何とかみんなが豊かに生きていくにはどうしたらよいかというのを、一方で考えなくてはならないと思います。

冗談というか半分本気で、湯西川の平家大祭に行ったときに、板橋区の副区長さんがお見えになっていて、板橋区の広報で、お見合いバスを出すので若い女性を募ってくれませんかと言ったら、お安い御用ですというわけです。板橋区とか大都会の中では、こちらと交流をして、仮にお嫁に行ったとしても、人口が減ることに対しては、そんなに危惧するようなことはないようです。婚活のイベントとかも、今は各団体に助成金を出してやっていて、市としても力を入れてやっているのですが、男性と女性の出会いの場を、何度もつくって、なるべく結婚しない男の人、女の人を少なくする、結婚していただくようにしていきたいと思っています。

ただ、15年か20年のスパンの考えになりますが、ここで育った子供たちが帰ってきてくれるかどうかが一番ではないかと思っています。小学校や中学校の卒業式に行くといつも悩みますが、口では、みんな自分の個性を伸ばして世界にはばたけと言うのですが、しかし本音は帰って来いと思っています。帰るにも職場がないと帰れませんから、そこには企業を誘致するとか、働く場所をしっかりと確保する、働く場所に関しては、市の中で日光市の人全部働けるようにする土台は無理な話で、極力確保はするけれども、宇都宮に職場はあるけれど、住むのは地元だというふうにしてもらうのが必要だと思います。

それには、今を生きる我々の世代が、この地域に自信と誇りをもって良いところだと、なんとかこの地域を良くしたいという大人の思いを、常に子供に伝え続けることが大切だと思います。こんなところが減ってしまってもうにもならない、この地域はやっていけないと、普段大人が口にしていると、子供は絶対帰って来ません。そこが肝心なところだと思います。例えば悪いですが、教育長の前で失礼ですが、夫婦で子供が聞こえるところで、学校の先生の悪口を言っていると、子供は勉強ができなくなります。ばかにして授業を聞か

なくなります。それと同じで、やっぱり自分たちで、この地域を何とかしよう、この地域はいいところだ、プライドを持って塩野室の自信と誇りを皆でつかもう、ましてや世界の日光に住んでいる、大きな日光市に合併して日光の子供なんだ、頑張ろうと、我々の世代がきちんと発信していくことが、最終的には人口減少を食い止める一番のことかと思えます。

参加者 5 私の地区で子供会に入っているのが2家族しかいなくて、あと2、3年したら家だけになってしまいます。すでに2家族しかいないので、子供たちが集まる場所もつくっておらず、最後に景品をもらうとか、そういうことしかしていません。子供が集まる場所をつくってもらえれば、大人も自然に集まると思います。そうすれば、孫の姿を見たいというおじいちゃん、おばあちゃんも出てくると思いますが、もう少し子供会の数を少なくして、まとめてもらってもいいのかなと考えています。

教育長 この間、子ども会の連絡協議会の総会があったのですが、子ども会の団体数や加入率が減少しているのは、全国的な傾向なのですが、活動をやる上で、子ども会は地域とのつながりとか、健全育成、子供の育成という上では非常に重要な団体であると、皆さん認識はされています。主体となる子供がいなければ、子ども会は成立しないので、そういったところでは、子ども会組織の合併というか、地域の見直しは可能だと思います。地域の子ども会同士で状況を把握しながら、相談しながら、合同で活動するとか、そういうところは各子ども会単位で協議することは可能だと思います。子供たちが楽しく活動できるような子ども会の組織づくりについて、地域で知恵を絞っていただきたいと思えます。

参加者 6 塩野室地区で一番の問題は、小学校の人数が減ってきて、部活の関係がかなり少なくなってきました。小学校で部活を頑張ってきたけど、中学校にあがって部活がないということで、他の中学校に流れてしまう方が多いので、そこで育成会を抜けてしまうとか、他の地域に行ってしまう方がいらっしゃるの、子供の数も減り、育成会もどんどん減りというようなことになってきています。そういうところを考えていただきたいと思えます。

教育長 私は14年前に小林中に赴任しまして、部活動の新設の申請がありました。小学校でホッケーが盛んで、中学校にないので、ぜひつくってほしいと要望があり検討しましたが、仮に新設したときに、中学校のホッケー部が何年継続できるかというあたりを検討しましたが、その当時新設については、無理という結論を出しました。過去にサッカー部を小林中でつくられて、それが2、3年で消えてしまいました。せっかくつくっても、継続して活動できないという状況が、その当時の情報としてあったので慎重に考えました。その先の部員確保ということになると、また2、3年で廃部になるのはどうなのかなと思えます。現在、小林中は39人です。この間にバスケット部がなくなり、バレー部がなくなりということで、団体競技の部活が全てなくなり、テニス部だけという状況になってきています。子供たちの活動の活性化という意味では、人数が少ない中での活動というのが課題になっているのは、小林中のみならず共通の課題であると思えます。指定学区を変更するという中に、部活動の要件がありますが、追跡調査がありまして、その子が転校した学校で、その部活動をしているのか調査をすることがあったのですが、やっていないから戻すというのは難しいので、学校の状況を考えると、各学校の活性化というのが大きな課題だと捉えています。

参加者1 小学校の入学式は20名いたのですが、中学校の入学式には10名になってしまいます。大沢中、今市中や豊岡中に部活の関係で行ってしまいます。前から懸念していたのですが、そういう制度があるために、親御さんも子供のことを考えてあげると駄目とも言えないのです。私たちは、子供さんを小林中においておきたいのです。市長がおっしゃったように、学校制度の問題だと思いますが、部活動はここからバスを出したり、そういう仕組みでもしてあげればと思います。塩野室には分科会後援会という組織というのをつくっていただき、各集落の各家から2,000円ずつ、子供たちは塩野室で育てようということで、基金をつくっているのです。色々ありまして1度はボツになりましたが復帰しました。70年の歴史がありますので、継続しようと自治会で復帰させたのですが、今年も63万8,000円集めて、小中学校で自由に使っていただこうとやっております。そのようなことも踏まえて、色々検討していただきたいと思います。

市長 部活動でみんな今市中に行ってしまうと、今市中は最終的に戦う学校がなくなってしまうのです。落合中も揃わない、大沢中は南原小が多いのでかろうじて揃うので、今市中と大沢中しか戦うところがなくなってしまうのです。それでいいのかなという部分もあります。

地元の落合で話を聞くと団体競技が成り立たなくて、スポーツクラブをつくって、色々な学校から集まってやっているのが徐々に増えてきています。例えば、サッカーをやりたいという選択をしたときに、小林中ではサッカーはできないけれども、スポーツクラブに参加をすればできますという選択が、今後は出てくると思います。

20何年か前に小学校の部活がなくなって、スポーツ少年団になりました。スポーツ少年団でも良いところと悪いところがありますが、お父さんお母さんの情報がどんどん循環するようになってきた段階で、違うところに行ってしまうとかそういうのも出てきた流れだと思いますが、できれば地元の学校に行っていきたいなと思います。

もともと三依や中宮祠や小来川は、その選択肢がないのです。だから個人の競技をやっています。同じ義務教育課程の中で、片や自由に行けます、片や選べませんというのはどうなのかなというのがるので、今まで緩めてきたものを見直す時期にきているのかなと感じています。できれば地元に行っていきたいということです。今のところは、私の個人的な考えということで聞いてください。

参加者3 何人かの方から、あったかまつりというお話がありましたが、塩野室地区は数年前から敬老会がなくなりまして、その後の代替えと申しますか、地域あったかまつりということで、老若男女、子供から高齢の方まで楽しめるゲームとかをして、非常に喜んでいただいて、人数などもだんだん多くなってきました。人づくりからまちづくりにつながるような、塩野室地区としてすばらしい行事なのかなと思っております。それをさらに内容を充実させるという点では、役員の皆さんと話をしまして、市の方をお願いしたいのは、例えばスライドやミニ公園とか、資機材の借入とか、そういうことができたら内容が充実できれば、今度はみんながどんどん集まってきて、更にいいまちづくりになっていくのではないかと思いますので、そういう要望や依頼がありました時には、よろしくお願いします。

地域振興部長 先ほどお話がありました、自治会から行政に提案して実施する制度の話がありましたが、そもその仕組みとしましては、自治会が実施するものに対する補助金というのがあります。お話いただいた沢

又地区については、活用いただいているようなのですが、それ以外の塩野室地区の自治会によっては、全く使われていないところも見受けられます。そういったものを、ぜひ活用していただければと思います。

育成会の組織の再編のお話がありましたが、そこまでいく話ではなくても、隣り合わせた複数の自治会で、何か交流イベントのようなものを実施するというようなことについても、自治会まちづくり補助金は使えるものですから、そういったことの活用も視野においていただけると、幅が広がるのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

参加者 1 生活に変化があったということで、非常に人口減少が進んでおります。特に塩野室地区の核となっていた老人クラブ、婦人会、若妻会など、いろいろな組織がなくなってしまいました。なぜなくなったかと言ひますと、会長がお亡くなりになり、そのあとができないということで、その辺の組織が全部なくなってしまふのです。そういう組織がないのは、塩野室地区だけなのです。今、非常にいろんなかたちで困惑しています。育成会の活動もできない状況なので、その辺を一つ一つ、自治会を通して新たな塩野室まちづくり委員会というのを起ち上げようということで、色々な方とやっていきたいと思ひています。皆さんがおっしゃいましたように、自治会で塩野室地区の体育祭をどうしようかという時に、全員反対されました。軽スポーツをやっていくのは、体育祭しかないと思ひます。今までは人数がいたのですが、今はとにかく子供がいないので、参加する方が非常に少なくなってしまいました。でも、年に1回会える方がいるということですので、なぜやっているかという意味合いが、集落には伝わっていませんでした。その辺を改善していきたいと思ひています。もう一つは、敬老会なのですが、スタッフが120名、対象者が400名いるのですが、40人しか来ないのです。結局は、ただのかたちかなということなので、2年前から落合や大沢を参考に、塩野室地区の敬老会を変えていこうということではじまりました。昨年はスタッフが100名、200名、300名、その前は250名ということで、今、敬老会をサマーバージョンでやっています。その2つの柱をつくりながら、いろいろ出た意見や各委員の意見等をまとめながら、塩野室をどうやったらつくっていきけるかなと。もう一つは、塩野室地区に各集落単体で各種サークルがあります。それを1つにまとめあげて、塩野室地区の老人会、婦人会そういう形を起ち上げて、塩野室独自につくって、市のほうでできる部署があれば参加をさせていきたいと思ひています。あと、分科会後援会は70年の歴史がありまして、多くの子供たちを育てようと、よそにない組織でござひます。そういう意味でやっているのだからサマーバージョンで子供育成基金というのをつくりまして復活させました。小中学校に關することなら何でもいいから使えと、子供たちに關わるもので、予算がないなら使ひなさいということをやっています。自治会で、今、200万円ほどのお金を持っています。これはお祭りができなくて、最終的には色々なお金が集まって、200万円の基金も持っていますので、そういうものを活用してやっていきたいと思ひます。場合によれば、子供さんがスポーツクラブに行くための助成もしてあげたいと思ひています。小中学校の統廃合の問題も、現に考えていかなくてはいけないと思ひています。地元では残したいと、いずれにしても果たしてこのままだけりかどうか、その辺も提案をしようと思ひています。地元としては残していききたいのですが、その辺も踏まえてという考えをしています。もう一つは、塩野室地区の場合は、交通の問題がどうしてもあるのですが、デマンドバスの交通等も考えなくてはならないのかなと思ひます。塩野室の場合は、塩谷へ行ったり、今市へ行ったり、宇都宮へ行ったりと近い場所にあるものだから、なかなか地元の方は考えていないのですが、5、6年前から宇都宮の篠井や富屋ではやっていますので、参考にやっていきたいと思ひます。道路の整備ですが、県の方に11月30日に日光から県知事に行つて来たのですが、塩野室は地元の要望を出していませんでした。何とか県道の整備もやっていきたいと思ひます。市道の整備も願ひしたいと思ひ

ます。道路の整備をしながら、デマンド交通も考えていきたいと思えます。塩野室の場合、30戸くらい増えているので、小林1区の場合ですと100軒のうち20名が独身なのです。そういうことが起きてきますので、その辺を踏まえてどうしようかと、ですから婚活についてもやっていかななくてはならないのかなと思っています。塩野室は鉄道もないところですので、道路の整備が終わらないということです。ただ、幸いにして大宮のほうから来る今市氏家線の方は、反対していた方が判子を押ししていただいたので、3年以内には小林橋は何とかなるということです。他にも道路整備について、いろいろな要望を出すと思えますが、よろしくお願ひしたいと思えます。

地域振興部長 地域振興の部分で言いますと、自治会単位のもの地域全体としてのもの、地域が行政にやって欲しいというもので、それぞれの内容・状況に応じた様々な助成制度であるとか、支援の体制があります。地域で独自に財源等があるようなこともお伺ひしたので、そういったものとの合わせ技で、優先順位が高い順にやっていけるものを検討いただければ、そういうものを活用していただければと思えます。

参加者7 これから65歳以上の方の高齢化が進んでいくと思えます。70、80歳になっても運転していて、事故になるようなことが全国各地であると思えますが、日光市において、後期高齢者が免許を返上した場合には、どのような対応をしているのかをお聞きしたいと思えますので、よろしくお願ひします。

市長 現行は免許返上で、1万1,000円のタクシー・バス共通の利用券を差し上げるということになっています。私が選挙の政策の時にうたったのは3点ありまして、1つが高齢者の方は走っているバスを無料にしますということです。

皆さん免許証があるうちにバスに乗ってみてください。車を車庫において、バスに乗る練習をしてみてください。バスに乗って買い物に行ってみてください。バス停まで歩く、買い物をする、また歩くと、体にも良いと思えます。これなら免許証を返してもいいなと思えれば、その時にはじめて免許証を返してください。免許証を返すころになると、バスに乗るのも億劫だったり、乗り方も分からないということもあるので、なるべく皆さんで公共のバスを使ってください。利用率を高めることにもなりますので、バスの無料化を図りたいという政策を出しました。

同時に免許証を返すとなった時に、できれば1万1,000円を3倍ぐらいに拡大したいと思っております。バスが無料になれば、緊急時にタクシーに使えると思えます。2、3、4、5年目も1万1,000円のタクシー券を出して、免許証を返しやすい環境をつくって、少しでも事故を減らしたいということで出しました。あとは、安全装置が付いた車を買う時に、少し補助ができないかなというのも政策に書かせてもらいました。現行は、まだ1万1,000円です。

市長 皆さん、今日は長時間にわたりありがとうございました。色々お話を聞かせていただいて、私も非常に参考になりました。どこの自治体も、大変な課題がたくさんあります。私は選挙のときに、新聞やテレビでもずっと言っているのですが、日光プライドという言葉を使いました。これは読んで字のごとく、日光の自信と誇りとプライドです。それは、この塩野室地区では、皆さん塩野室プライドがあるのです。伝統、文化、誇りをきちんとやっていこうというのが、塩野室プライドだと思います。私が住んでいるところには、落合プライドがあります。それを、やはり次の世代にしっかりと伝えていかななくてはならないと思えます。

あわせて皆さんにお願いしたいのは、合併した日光市のプライドも共有していただきたいと思います。足尾のこと、栗山のこと、湯西川のこと、素晴らしい自然と観光日光もありますし、そこに一緒に住む市民ですから、塩野室プライドと新しい合併した日光プライドのダブルスタンダードで、自信と誇りを一緒につくっていきたいと思っています。前途多難ではありますが、職員も市民の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っていますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。